

雜 錄

「暹羅市場に於ける日本商品の地位」の内各種金屬製品 (外務省通商局)

(イ) 總記 各種金屬製品の輸入價額は毎年約 1,200 萬銖若くは其れ以上に昇り、各種輸入品中綿製品に亞ぎ重要な地位を占むるものなり。其の品別輸入價額を表示すれば示表の如し。

最近 5 ヶ年金屬製品輸入價額表 (單位千銖)

品 別	1926— 27 年	1927— 28 年	1928— 29 年	1929— 30 年	1930— 31 年
アルミニウム製品	665	567	498	471	457
眞 鍮 製 品	1,067	1,022	767	837	740
銅 製 品	53	77	62	62	57
鐵 及 鋼 製 品					
バー及セクション	740	736	1,507	1,255	1,256
シート及プレート	155	230	206	156	128
亞鉛引鐵板	3,156	4,131	3,259	3,153	2,467
鉄力板	407	614	451	592	459
バンブー、スチール「バー及セクション」 ミラノ、スチール」の項中に含まる				17	2
				59	41
ワイヤー及其製品	343	340	466	435	424
ワイヤー釘	293	284	501	312	332
其他の釘、螺旋リベット	162	236	266	205	236
鐵道材料	270	159	875	224	111
エナメル製品	951	1,233	596	1,474	699
其他の鐵鋼製品	3,053	3,740	3,941	3,849	3,908
計	9,630	11,753	12,068	12,731	10,062
ニッケル製品	96	140	91	120	96
鉛製品	20	26	27	37	36
錫製品	139	491	396	480	398
亞鉛製品	24	29	5	4	6
其他	113	134	123	134	77
合計	11,809	14,220	14,035	14,873	11,929

(ロ) 鐵及鋼製品 前項所掲の統計の示せるが如く各種金屬製品中の 80—90 % は常に鐵及鋼製品の占むる所に於て、其の額毎年 1,000 萬銖を超過せり、各種の鐵及鋼製品中本邦品の輸入皆無なるか、又は僅少に過ぎざるものはバー及セクション、シート及プレート、鉄力板、バンブースチール、ミラノスチール、釘類及鐵道材料にして、畢竟日本品は亞鉛引鐵板及エナメル製品以外には全く無勢力なる現状なり。以上兩品の外には只最近年度に於てワイヤー及其の製品が初めて 2 萬 3—4,000 銖を示したる事實あり、其の今後の増減は未だ逆睹し難し。

元來鐵及鋼製品は英國最も優勢にして、同國は綿製品及機械類と共に之を重要視し、之が爲英暹通商條約は暹羅の關稅自主權承認の條件として 10 年間從價 5 分を課

し居れり。世界大戰中一時本邦製品の比較的地位が他の諸製造品と共に大いに向上したるの事實ありしも、平和克復後輸入増加と共に英國品は急激に其の地位を挽回し、其の他歐米諸國品亦大いに進出せると反比例して本邦品は戰時中の地位を全く喪失したり。以上は本邦に於ける重工業の最近の發達に顧み頗る遺憾なる事實にして、輸入年額 1,000 萬銖を超過する暹羅市場に當業者の決して看過するを許さざるなり。最近本邦關係當業者が漸く鐵道材料の供給に手を染むるに至りたる模様なるが、當國の官邊に格別の勢力を有せざる本邦當業者としては此の方面への進出は相當多大の困難あるべきは想像に難からず然れども之を他方より觀察すれば目下の不況の下に工場能力を維持せざるべからざる本邦諸工場の競争力は従前の比にあらざるべしと考へられ、即ち今の時代こそ我重工業製品の暹羅市場進出を企圖すべき好機會なりと見ること不當にあらざるべし。況んや輸送便宜の關係より見れば本邦は歐米の何れの競争國よりも有利なる地位に在ること勿論なり。唯問題は技術上の優劣の比較にして従來歐米殊に英國品に親み來れる當國需要者の本邦技術に對する信用を樹立するには尙相當の苦心と歳月を要するを免れざるべし。鐵及鋼製品中の重要品にして而も本邦品が最も優勢な地位を占むる亞鉛引鐵板及エナメル製品に付ては之を別項に於て述ぶることとす。

(ハ) 亞鉛引鐵板 亞鉛引鐵板は暹羅に於ては屋根又は墻壁等の建築用並に諸器具製作材料として早くより相當多量の輸入あり、今後も尙其の増加を見るなるべく市場の不況漸く深酷となりたる 1930 年に至りては其の輸入價額は前年の約半額に激減せるも、景氣の回復と共に再び増加すべき疑なき所なり。

元來本品は世界大戰前に於ては英國製品殆んど市場を獨占して到底他國品の追隨を許さざりしが、戰時中 1916 年頃より米國品の進出を見るに到りて一時全く英國品に取つて代り 1918 年度の如きは英國品の輸入は皆無となるに至れり然るに戰後再び英國品の輸入擡頭して急激に其の地位を回復し米國品全く驅逐せられたり。

此の間日本品は未だ全く市場に上るに至りざりしが、1926 年始めて其の輸入を見て以來驚くべき速度を以て激増して幾何もなく英國の地位を奪ひ同國品をして復起つ能はざるに至らしめたり。即ち 1926 年始めて輸入せられ

てより其の翌年には早くも其の額英國品と相伯仲し、翌々 1928—29 年度には濟南事件に因る華僑の對日ボイコットの爲稍頓挫を免れざりしも、尙 5 對 3 の地位を維持し得たり。1929—30 年には英國品 25 % のに對し日本品 75 % となりて著しく英國品を凌駕し、更に 1930—31 年に至りては日本品の輸入價額は 210 餘萬銖即ち總額の 9 割を占め、略々完全に近き迄に英國品を驅逐したり。其他諸國品に至りては獨逸品、白國品等なきにはあらざれども掲ぐるに足るものなし。

今戦前以來本品輸入増減の趨勢と日英兩國品角遂の状況を表示すれば次の如し。(數量單位千疋、價額單位千銖)

年次	輸入總額		英國品	日本品
	數量	價額	輸入價額	輸入價額
自1911—12年} 5ヶ年 至1915—16年} 平均	—	731	599	—
備考	英國品約 7 割 5 分を占む。其他には白、獨諸國品あり。1915—16 年に於て米國品始めて輸入せられたり。			
自1916—17年} 5ヶ年 至1920—21年} 平均	684	345	221	—
備考	英國品 6 割 4 分を占む。戦時中以來英國品減少して米國品之に代り、1918—19 年には英國品皆無となりしが、其の翌年より急激に復活して米國品を驅逐せり。			
自1921—22年} 5ヶ年 至1925—26年} 平均	6,448	1,924	1,527	—
備考	英國品 7 割 9 分其の以外には獨、佛、白、丁、米等の諸國品少量宛あり。			
1926—27年	11,180	3,156	2,627	80
備考	英國品 8 割 3 分、日本品始めて輸入せられ、2 分 5 厘に當り、第 2 位其他には獨逸品、白國品等少量			
1927—28年	15,918	4,131	2,021	1,876
備考	英國品 4 割 9 分、日本品 4 割 5 分			
1928—29年	14,121	3,259	1,783	1,160
備考	英國品 5 割 5 分日本品 3 割 5 分ボイコットの爲出端を挫かれたるの觀あり。其他には獨逸品あり。			
1929—30年	18,827	4,153	1,083	3,012
備考	英國品 2 割 6 分、日本品 7 割 3 分、日英兩國品は始めて主客顛倒せり。			
1930—31年	13,055	2,476	220	2,244
備考	英國品 9 分、日本品 9 割以上何れも新嘉坡より少額の轉輸を含む。香港轉輸は皆無とす。			

本品の輸入にありては他の多くの商品に付て見るが如き本邦品の香港伸繼輸入の皆無なるは注意すべき事實なり。蓋し日本品輸入を見るに至りたるは三井物産會社船舶部が盤谷直航々路を開設するに至りたる以後のことに屬し、之を利用する本邦商人の手に依りて本品の販路を暹羅に開拓したるものなり。海外貿易の進展は航路の開拓維持を以て其の重要な前提條件とするものなることの好適例なり。兎に角暹羅に於ける日本商品の販路は華

僑の努力に依頼して開拓せられたるにあらざるは稀なる間に於て、本品の場合の如く本邦船舶に航路と日本商人の着眼努力に依りて急激なる伸長を示したるものは快心事なりと云ふべし。

輸入亞鉛引鐵板には波形板と平板とあるも、當國輸入統計は其各別數量價額を示し居らず。5、6 年前迄を全く輸入せられざりし日本品が短時日の間に斯の如く激増して英國品の獨占的地位を奪ふことに成功したるの事情は何れにありやと云ふに、元來暹羅の市場は品質の良否よりも價格の高下を以て第一に考慮せらるべき條件とするものゝ如く、此の事情は多くの輸入品に付同様なりと云ふことを得べき處、殊に亞鉛引鐵板に於て其の然るを見る。即ち支那人取扱商又は諸器具類製作人等は鐵板の厚度の如何を問はずして價格の低きを喜び、厚度高きものゝ優良なるを知り乍ら其の低きものと價格同一なる場合にあらざれば之を擇ぶことなしと云ふ。英國品は日本品との價格競争に於て到底其の敵に非ず、今日にては英國品は所謂疵物にして價格特に引下げられたるものゝあらざれば賣行なく、其れすら價格は日本品より幾分高めなり。日本品の此の競争力の源として英國商人側に於て數へ立てたるものは日本の低廉なる勞銀に基く生産費の低廉なることを主とし、此の外尙盤谷日本商社の營業費の低額なること日本人旅商等の經費の少きこと短距離の爲の運賃低廉並に直航航路を有すること等を掲げ居れり。

(=) 珞珈鐵器 暹羅市場に於て需要せらるゝ珞珈鐵器は其の品種に於て他の市場と大差あるを見ず。即ち洗面器、盆、湯沸し、水飲コップ、重辨當箱、匙の類之れなり。其の輸入年額は最近 5 ヶ年間の平均約 100 萬銖とす。

本品の輸入は世界大戰前にありては獨、澳兩國品最も優勢にして、佛英兩國品之れに次ぎ、日本品に至りては當年殆ど皆無に近かりしが、大戰中より漸次相當の地盤を築きて一時市場の大半を占めたり。戦後其他歐洲品の輸入漸次復活して爲に日本品の地位低下を免れざりしも其の後逐年優勢なる地歩を獲得し、1925—26 年以來再び輸入の過半を占め 1930—31 年度に於ける日本品の輸入は全體の 67 % に當り、之に對し獨逸品は 17 % を示したり。次の如し。(單位千銖)

年次	輸入總額	日本品輸入額	備考
1913—14年	443	—	獨逸品 4 割、獨逸品 2 割 其の他歐洲諸國品
1918—19年	292	138	日本品 4 割 7 分其の他には香港及新嘉坡よりの轉輸品、英國品、印度品等あり
1920—21年	444	172	日本品 3 割 9 分、歐洲諸國品再現、丁抹品 1 割 2 分、英國品 7 分等

1925—26年	868	577	日本品 6割5分、其他獨 丁、英等の諸國品
1926—27年	951	579	日本品 6割、獨逸品稍進 出して1割5分
1927—28年	1,233	888	日本品7割、獨逸品1割1分
1928—29年	596	212	日本品 3割6分に低下、 ボイコットの直接影響な り獨逸品 3割4分にて 日本品と伯仲し其の他英 丁等諸國品多少進出せり
1929—30年	1,474	977	日本品 6割、獨逸品 1割 7分
1930—31年	699	428	香港及新嘉坡 仲繼輸入を 合算す日本品 6割7分、 獨逸品 1割7分

昭和3年の濟南事件に起因する華僑の對日ボイコットが如何に痛切なる影響を日暹貿易に興へたるやは示表に現はれたる一例を以ても之を窺ふことを得べし。即ち其の3—4年來毎年60%乃至70%の優勢なる地歩を占め居たる日本製品の輸入が同年に於ては忽ち36%に激減して之と同時に獨逸品大いに増加して日本品の壘を摩さんとしたり。尤も同年に於ては日本品の輸入激減の爲暹羅の本品輸入總額は其の前年の半額に及ばず、獨逸品比率躍進したるは必ずしも其の輸入力數量價額に於て著しく増加したるが爲にはあらざりしなり。ボイコットの終息したる其の翌年度に於ては日本品は直に從前の地位を恢復し、同年度本品の總輸入價額は前年の2倍半に當る激増を示したるも、主として本邦品の輸入が約4倍半に増加したるに職由するものなり。要之暹羅市場に於ける珓瑯鐵器は數年來本邦品絶對的地位に在りて他の諸國品の追從を許さず、濟南事件後約1年の久しきに互りたるボイコット進行中に於てこそ大頓挫を來すを免れざりしも、此の一時的頓挫ありしも尙容易に覆す能はざる根據を据えたるものにして甚だ心強きものありと云ふべし、尤も獨逸品の競争は決して油斷すべからず、其の他にも注意すべきものとしては英國品及チェッコ製品あり。

尙香港より輸入せらるゝもの相當の額を示し居れる處以上は殆ど全部本邦品の轉輸せらるゝものにして、支那製鐵器の輸入せらるゝものは極めて輕少に過ぎざるなり

(ホ) 眞鍮、アルミニウム錫製品 鐵及鋼以外の金屬製品として最も重要なるものは眞鍮製品、アルミニウム製品及錫製品にして、其の輸入年額眞鍮製品は7—80萬乃至100萬銖に及びアルミニウム製品 50萬銖内外錫製品は3—40萬銖を示し居れり。

眞鍮製品の輸入國として最も重要なるものは支那にして、日英米獨等之に次げり。最近5ヶ年間に於ける此等國別輸入價額次表の如し。

最近5ヶ年間眞鍮製品國別輸入價額表 (單位5銖)

國別	1926— 27年	1927— 28年	1928— 29年	1929— 30年	1930— 31年
香港	566	603	429	369	373
支那	253	136	66	97	131
日英	91	93	26	130	69
米獨	58	89	133	86	88
其の他	6	8	22	21	10
合計	1,067	1,021	767	837	740

以上表中香港よりの輸入常に著しく多額を示し居れる處、其の96—7% 迄は支那製品にして、即ち暹羅の市場に於ける眞鍮製品の約70%弱は支那品の占むる所と云ふを得べし。本邦品の如きは未だ到底支那品の敵にあらざるなり。

次にアルミニウム製品にありては獨逸品巖然頭角を現はし、日、英、丁、印度、瑞西等の製品互角の勢を以て遂に下つて之に次げり。最近5ヶ年間の此等主要國別輸入價額次の如し。

最近5ヶ年間アルミニウム製品國別輸入價額表 (單位千銖)

國別	1926— 27年	1927— 28年	1928— 29年	1929— 30年	1930— 31年
日本	6	31	1	7	31
英國	21	7	9	4	32
印度	66	42	41	25	28
丁抹	5	24	32	9	21
瑞西	18	44	4	3	24
獨逸	521	391	380	397	284
其の他	28	28	31	26	37
合計	635	567	498	471	457

元來本品の輸入は戦前に於ては獨逸及日本の兩國相並びて重要の地位を占めたるが、戦時中獨逸品の輸入杜絶と共に日本品は最も重要の地位に立つに至れり。然れども本品の輸入總額は未だ僅少にして、久しく10萬銖にも達するに至らず。其の稍重要視せらるゝに至りたるは1922—3年以後のことに屬す。然るに本品の輸入が其後急激に増加するに至りたるは獨逸品の激増の結果に外ならずして、近年に於ける本品の暹羅市場開拓は全く獨逸製品の1923—4年以後に於ける活躍に負ふものと云ふを得べきが如し。前表の表示するが如く最近5ヶ年間に於て獨逸品は60% 餘乃至80% 餘を占め居り全く他國品の追隨を許さざる現状なり。此の間に於て日本品は寧ろ衰退の傾向を示し、1927年頃より稍々挽回せんとしつゝありたる際、華僑のボイコットに際會して挫折し、最近年度に於て再び擡頭して3萬餘銖を輸入したり。本品の輸入年額が50萬銖を算する間に於て本邦品の甚だ振ふ能はざる實狀なるは遺憾なりと云ふべし。近來本邦に於けるアルミニウム器製造業は相當の發達を遂げつゝある

等と考へらるる當業者の注意を喚起し度きもの一なり。

錫製品の輸入にありては米國第一位を占め居れり。最近 5 ケ年間の國別輸入價額次の如し。

最近 5 ケ年間國別錫製品輸入價額表 (單位千銖)

國別	1926— 27年	1927— 28年	1928— 29年	1929— 30年	1930— 31年
新嘉坡	54	160	149	150	85
香港	3	124	52	92	—
日本	45	61	16	43	21
英國	23	6	32	31	30
米國	1	82	66	75	139
英領馬來	—	—	—	9	13
獨逸	11	20	45	43	6
蘭領印度	—	28	25	21	91
其他	2	10	11	16	13
合計	139	491	396	480	398

錫製品の輸入に付ては新嘉坡及香港の兩地が最も重要な地位を占め居れる處、其の輸入は他の諸國製品の轉輸に係るもの多し。然れども 1929—30 年度以前にありては右兩地よりの轉輸貨物の原産地を知ること能はず、最近 1930—31 年度に至りて始めて其の原産地の申告を要することとなりたる結果、香港よりの轉輸錫製品は其の大部分が米國品にして、僅少の一部が日本品なること判明し又新嘉坡よりの輸入中同地原産のものは其の一半に過ぎず、他の一半の大部分は蘭領印度製品之を占むること判明したり。此等原産地別數字を採用せる結果として前表中最近年度の國別數字が従前の夫れに比し甚しく形勢に變化を呈せるを見るを得べし。即ち錫製品供給國として最も重要なものは米國にして、蘭領印度及新嘉坡之に次げる處、茲に顯著なる事實として注意せらるるは米國及蘭領印度の兩者は 5 年前迄は其の供給額極めて僅少に過ぎざりしに、1927—28 年度即ち僅か 4 年前に至りて俄然激増したるの事實之なり。日本品の輸入は數年來大體 5 萬銖内外にして甚だ振はざりしが、最近年度の如きは更に減少し香港伸繼を合するも 2 萬銖餘に過ぎざるなり。

製鐵合同根本案 (新聞抜萃) 中島商相は第 63 議會で製鐵合同に關して聲明した關係上、次の議會には是非共製鐵業合同に關する諸案を提出せねばならぬ立場にあるので、過般來中井製鐵所長官、野田技監、福田鑛山局長等と共に合同案を研究し、一方牧田、大河内兩合理局顧問、郷誠之助男等と協議し、更に高橋藏相、三土鐵相、岡田海相荒木陸相等關係閣僚等の諒解を求めてゐたが、漸く次の如き根本方針に到達し目下民間主要會社大藏省等と内交渉中である。

合同案提出の目的 従來は鐵鋼の自給自足を目的として大合同を計畫したが、最近における經濟界の事情はその必要を認めないので、今回は銑鋼一貫作業の徹底によ

り生産設備改善を計り、延いて生産費の低下を實現せしむることを目的とする、即ち主としてスクラップに據る製鋼方法は不安定なるが故にこれを出来るだけ廢止するのである。

合同方針

(1) 政府は八幡製鐵所を現物出資とし大體内地、滿洲國の製鐵製鋼會社 13 社日本製鋼所 (輪西) 釜石、三菱、(兼二浦) 東洋製鐵、淺野造船製鐵部、日本鋼管、富士製鋼、淺野小倉製鋼所、大阪製鐵、神戸製鋼所、九州製鋼、滿鐵鞍山製鐵所 (本溪湖) の大合同を目標とする、然し内地においても鋼材界の實情は今直に製鋼會社を誘致することは困難であり又日滿經濟關係未確定の今日滿洲國のものも今直に参加を求めることもまた困難なるやも計り難いので、差當り銑鐵 5 社 (日本製鋼所、釜石、三菱、淺野、東洋製鐵) 製鐵所の合同を成立せしめ他は各社の自由に委す。

(2) 合同に際して製鐵所を始め各社とも一切の債權債務を整理するはもちろんなるも更に合同の目的に照しその資産評價は一層嚴密に行ふため法律により評價委員會を設けこれにより製鐵所の評價を基準として評價せしめる。

(3) 政府は新會社に對しては補助を原則として與へない、即ち現在八幡製鐵所に對し 7,000 萬圓を限度として運轉資金を預金部より貸付けてゐる制度並に過般引上げたる關稅を据置く外、社債補償を與へざるはもちろん現行の製鐵獎勵金制度を廢止する。

(4) 政府は大合同の使命に顧み他の特殊會社の例にならひ監督を嚴にするため理事者、豫算、決算を認可制とする。

(5) 一定の義務配當上の利益金は銑鋼の市價引下げに充てしむる。

(6) 新會社所要の運轉資金は大體 3, 4,000 萬圓とし民間より調達す。

(7) 現在製鐵所が國防上負擔せる鑛石 1 ケ年分 150 萬噸貯藏並に兵器研究の義務は新會社に繼承せしむ。

(東京朝日 12 月 15 日)

内外最近刊誌參考記事目次

Steel, Oct. 17, 1932.

Rapid Erosion Tests Clarify Wear of Metals. T. F. Hengstenberg. p. 21-23.

Improving Open-Hearth Furnace Design. William C. Buell. p. 24-26.

Steel, Oct. 24, 1932.

Ford Recovers Steel Scrap by Dismantling Old Cars. E. F. Ross. p. 23-27.

Improving Open-Hearth Furnace Design. William C. Buell. p. 29-31.

- Equips New Electroplating Laboratory to Investigate Coatings for Zinc. p. 38.
- Steel, Oct. 31, 1932.**
Automatic Sheet Catchers Impose New Demands on Motors and Control. W. B. Snyder. p. 21-23.
Improving Open-Hearth Furnace Design. William C. Buell. p. 24-26.
Welded Steel Charging Boxes Withstand Service Test. Everett Chapman. p. 28-29.
- Steel, Nov. 7, 1932.**
Applies Photocell Control to Electric Rod Heaters. p. 26-28.
Investigates Ternary Alloys for Deoxidizing Steel. p. 31-33.
Improving Open-Hearth Furnace Design. William C. Buell. p. 36-37.
- The Iron Age, Oct. 6, 1932.**
The Rôle of Nickel in Nitriding Steel. H. J. French and V. O. Homerberg. p. 534-535.
- The Iron Age, Oct. 13, 1932.**
Industrial Russia. Homer S. Trecartin. p. 567-569.
Technique of Size Control in Precision Grinding Operations. R. E. W. Harrison. p. 570-571.
The Temperature-Atomosphere Problem in High-Speed Steel. Saur Tour. p. 574-576.
- The Iron Age, Oct. 20, 1932.**
Requirments and Composition of Cutting Tools. J. V. Emmons. p. 608-609.
Liquid Baths for Heat Treating—Low-Temperature Salt Baths. W. Paul Eddy. p. 613.
- The Iron Age, Oct. 27, 1932.**
Rapid Evolution of Bar Mills Typified by McDonald Plant. T. H. Gerken. p. 644-647.
Appearance as a Sales Factor in Design. George S. Brady. p. 648-649.
- The Iron Age, Nov. 3, 1932.**
Casting the Ford V-8 Engine Cylinder Block. p. 682-685.
Comparative Smelting Power of Coal and Coke. Roy P. Hudson. p. 685.
- Blast Furnace and Steel Plant, Oct., 1932.**
Normalizing Tin Plate. Edward S. Lawrence. p. 763-765.
Dagenham and Pretoria Furnaces. W. R. Brown. p. 766-770.
Finishing the Heat of Steel. Part II. J. H. Hruska. p. 771-773.
The Manufacture of Steel Sheet, Part II. James Bryden. p. 774-777.
Micarta Roll Neck Bearing. W. E. Brindley. p. 778-780.
Combustible Losses in Flue Gases. Part II. J. D. Keller. p. 781-783.
- Iron and Steel Industry, Oct., 1932.**
Gas Power in the Iron and Coal Trades. F. Johnstone Taylor. p. 3-7.
The Properties of Metals for High-Temperature-High-Pressure Engineering. Part I. J. H. G. Monypenny. p. 9-13.
Properties of Iron Made by the Process of Hydrogen Reduction. Heihachi Kamura. p. 15-18.
Iron and Steel Institute. Autumn Meeting. Abstracts of Papers. p. 19-22.
- Nickel-Chromium-Silicon Cast Irons. A. L. Norbury and E. Morgan. p. 23-26.
- Foundry Trade Journal, Oct. 6, 1932.**
Scale Removed by Acid Pickling. A. B. Winterbottom and J. P. Reed. p. 204-205.
Nickel Cast Iron in Diesel Engines. p. 206-208.
- Foundry Trade Journal, Oct. 13, 1932.**
A New Steel-Making Process. Vincent C. Faulkner. p. 219.
Scottish Foundry Industry. H. D. Campbell. p. 220.
Scale Rmoved by Acid Pickling. A. B. Winterbottom and J. P. Reed. p. 221-223.
- Foundry Trade Journal, Oct. 22, 1932.**
Rational Use of Aluminium Bronze. C. H. Meigh. p. 234-235.
The Mechanical Preparation and Handling of Sand in Non-Repetition Foundries. Robert Macnab. p. 239-240.
- The Foundry Trade Journal, Oct. 27, 1932.**
Industrial Rusia of 1932. Percy Fox-Allin. p. 247.
Constant Weight Cupola Blowers. p. 249.
Some Observations on the character of Cast Iron. A. C. Vivian. p. 250-252.
- Metal Progress, Nov., 1932.**
Factors Affecting the Inherent Hardenability of Steel Edgar C. Bain. p. 17-21.
Operating Experience Built into 28-Foot Normalizer J. M. Watson. p. 22-28.
Thermostatic Metal- or Bimetal Nature and Utility. H. Scott. p. 29-33.
Structure of Welded Tubes Made of Steel Strip. J. S. Adelson. p. 37-41.
X-Ray Diffraction Patterns Show Strain in Metals. N. P. Goss. p. 48-51.
- Metals and Alloys, Oct., 1932.**
Nitriding Plant and Technique. H. H. Ashdown. p. 210-213.
Electric Steel for Castings. Henry D. Phillips. p. 214-219.
Percent Elongation in the Tensile Test as a Method of Measuring the Ductility of Thin Sheets. Raid L. Kenyon. p. 220-225.
Gamma-Alpha Transformation in Wrought Iron. R. H. Heyer. p. 226-232.
The Precipitation Theory of Steel Hardness. Roy M. Allen. p. 233-234.
On the Formation of Lamellar Pearlite. R. G. Guthrie and J. A. Comstock. p. 234-235.
The Resistance of Copper and Its Alloys to Repeated Stress. p. 236-238.
- Metallurgian, Sept., 1932.**
The Use of Coal in the Melting and Heating of Metals. R. J. Sarjant. p. 149-152.
Aluminium Sheet Production. Part XIV. Robert J. Anderson. p. 163-164.
- Metallurgia, Oct., 1932.**
Aluminium Sheet Production. Part XIV. Robert J. Anderson. p. 185-186.
The Use of Town's Gas in the Melting and Heating of Metals. J. C. Walker. p. 189-190.
The Measurement of the Surface Temperature of the Metal during the Drawing of Wire. F. C. Thompson, and H. G. Dyson. p. 191-192.

- Kanthal—A New Electrical Resistance Alloy. J. H. Russel. p. 195-197.
- Journal of the Am. Welding Society, Oct., 1932.**
 Influence of a Magnetic Field Parallel to the Iron Arc Welding. F. R. Hensel and W. A. Maddox. p. 5-9.
 Pre-Qualification Tests for Welders. Ernst Lunn. p. 10-12.
 A Corrosion-Fatigue Study of Welded Low-Carbon Steel. Wilber E. Harvey and F. Jerome Whitney. p. 12-19.
 Advantages of Thyatron Control for Resistance Welding. Warren C. Hutchins. p. 19-23.
 Distribution of Stresses in Welded Double Butt-Strap Joints. S. C. Hollister and A. S. Gelman. p. 24-31.
 Qualifications for Welders. Vincent P. Marran. p. 31-34.
 Oxyacetylene Cutting as Applied to Railroad Car and Locomotive Scrapping. W. H. Ludington. p. 34-36.
 The Chemistry of Low-Carbon Metal-Arc Weld Metals. J. C. Hodge. p. 36-40.
- Stahl u. Eisen, 29. Sept., 1932.**
 Die Rohspataufbereitung der Grube Eisenzecherzug in Siegerland. Walter Nix. s. 941-944.
 Einfluss magnetischer Felder auf die Alterungsvorgänge im gehärteten Stahl. Albrecht Kussmann u. Hans Joachim Wiester. s. 944-946.
- Stahl u. Eisen, 6. Okt., 1932.**
 Achsbrüche bei Eisenbahnfahrzeugen und ihr Ursachen. Reinhold Kühnel. s. 965-969.
 Verwendung von Baustoffen aus Hochofenschlacke im Kleinwohnungsbau. Arthur Guttman. s. 969-972.
- Stahl u. Eisen, 13. Okt., 1932.**
 Erfahrungen u. Ziele im amerikanischen Walzwerksofenbau. Hermann Bleibtreu. s. 989-995.
 Die deutschen Norman für fenerfeste Baustoff. Ernst Hermann Schulz u. Fritz Hartmann. s. 995-998.
- Stahl u. Eisen, 27. Okt., 1932.**
 Stand der Kenntnisse über die Zerspanbarkeit von Stahl und Gusseisen. Franz Rapatz. s. 1037-1045.
 Die Gefügeausbildung von Feinblechen aus welchem Flussstahl durch Glühung. Werner Busson. s. 1045-1047.
- Die Giesserei, 14. Okt., 1932.**
 Die Wärmebehandlung des grauen Gusseisens. P. A. Heller. s. 413-419.
 Fehlerquellen aus den Abrechnungverfahren der Handelsgiessereien. Fritz Schröder. s. 419-424.
- Die Giesserei, 28. Okt., 1932.**
 Die Auswuchtung der Rohrformen für Schlen-dergieszmaschinen. Walther Saran. s. 434-437.
 Fehlerquellen aus den Abrechnungverfahren der Handelsgiessereien. Fritz Schröder. s. 437-443.
- The Foundry, Oct., 1932.**
 Castings Star as Movie Props. J. T. Jackman. pp. 12-14.
 Melts Iron in 21-Inch Cupola. Gottfrid Olson. p. 17.
 Economies in Steel Casting Design. F. A. Lorenz. pp. 20-22.
 Making Manganese Bronze. Charles Vickers. pp. 26-27.
 Prevent Losses with Proper Gates and Raisers. Pat Dwyer. pp. 38-42.
- Heat Treating and Forging, Oct., 1932.**
 Quench Cracks in Forging. Bernard Thomas. pp. 577-579.
 Industry's Challenge to Trade Associations. C. H. Smith. pp. 580-582.
 Metallurgy of Engine Valve Steels. J. R. Handforth. pp. 583-587.
 The Graseous Cementation of Steel. Part II. E. C. Cook. pp. 588-590.
 Combustible Losses in Flue Gases. Part II. J. D. Keller. pp. 595-598.
 Furnace Bright Anneals Copper Wire. J. B. Nealey. pp. 599-600.
- Metal Industry (New York), Nov., 1932.**
 Cathode Sputting—A Commercial Application. Hall F. Fruth. pp. 428-431.
 Phosphorus in Red Brass. R. W. Parsons. pp. 433-435.
 Powdered Metals By Electrolytic Methods. Joseph Rossman. p. 436.
 Some Attempts at Making Beryllium-Magnesium Alloys. Ronald J. M. Payer and John L. Haughton. p. 437.
 Analysis of Free Cyanide in Brass Plating Baths. L. C. Pan. pp. 438-439.
- The Metal Industry (London), Sept. 30, 1932.**
 Phosphorus in Red Brass. Edmund Richard Thews. pp. 317-318.
 Corrosion-Fatigue of Metals. H. J. Gough. pp. 319-322.
 Institute of Metals Autumn Meeting. Further Abstracts of Papers. pp. 323-324.
 Electro-Plating Rheostats. Frank Peasgood. pp. 327-329.
- The Metal Industry (London), Oct. 7, 1932.**
 The Story of Early Metallurgy. X-Irish Gold. R. T. Rolfe. pp. 341-344.
 Manufacture and Use of Powdered Metals. Charles Hardy. pp. 345-347.
 Corrosion-Fatigue of Metals. H. T. Gough. pp. 349-350.
 A 4,000-Ampere Sodium Conductor. R. H. Boundy. pp. 351-353.
- The Metal Industry (London), Oct. 14, 1932.**
 Modern Gold Rolling Mills. pp. 365-368.
 Researches on Beryllium. H. A. Sloman. pp. 369-372.
 The German Non-ferrous Metal Market in September. German Correspondent. pp. 373-374.
 Practical Plating. E. A. Ollard. pp. 375-376.
 Control of Plating Solutions.—Open Discussion by the E. P. and D. P. T. S. pp. 377-378.
- The Metal Industry (London), Oct. 21, 1932.**
 Modern Ideas in Silversmiths' Work. "Electro-grapher." pp. 389-390.

- The Canada-United Kingdom Trade Agreement.
A Special Correspondent. p. 391.
Anodic Oxidation of Aluminium. pp. 395-396.
Researches on Beryllium. H. A. Sloman. pp. 397-400.
- The Metal Industry (London), Oct. 28, 1932.**
Cause and Effect in Bronze Founding. Francis W. Rowe. pp. 413-416.
Researches on Beryllium. H. A. Sloman. pp. 417-418
Continuous Strip Annealing. O. Junker. pp. 419-420.
Practical Plating. E. A. Ollard. pp. 425-426.
- Zeitschrift für Metallkunde, Okt., 1932.**
Allgemeine Gesetzmässigkeiten der Gefüge und Eigenschaftsänderungen bei Umwandlungsvorgängen. G. Sachs. s. 241-247.
Die Umwandlungen im System Gold-Kupfer und ihre grundsätzliche Bedeutung für die Umwandlungen fester Metallphasen. L. Graf. s. 248-253.
Untersuchung über Form und Anordnung von ferromagnetischen Ausscheidungen mit Hilfe der magnetischen Waage. E. Gerold. s. 255-257.
Volumenänderungen durch Diffusion im Zusammenhang mit der umgekehrten Blockseigerung bei rascher Erstarrung. C. Haase. s. 258-261.
Arbeitsverhältnisse an einer direkt angetriebenen 1500 t-Strangpresse mit 300 at Pressdruck. C. Bernhoeft. s. 261-263.
Über die Korrosionsbeständigkeit einer neuen Zahnlegierung „Chrogo U 42“ H. Choulant. s. 263-264.
- (若林)
- 海外經濟事情 第5年 第44號 昭和7年11月7日**
不當廉賣の疑ある本邦商品に對する米國製造業者の陳情大要
アルゼンチン國石油生産狀況
ビルマに於ける鑛業並輸物輸出入額
米國ルイジアナ州鑛業概況
ドイツ、ベルギー間石炭協定成立
- 北海道石炭鑛業會々報 第218號 昭和7年10月25日**
北海道の金銀鑛業 松坂 將々 p. 1
機械探炭法 日野 神兒 p. 26
- 金屬 11月號 昭和7年**
歐洲に於ける輕合金の近況 松山 寬慈 p. 453
輕合金熱處理の原理 山口 珪次 p. 468
- 海外經濟事情 第5年 第45號 昭和7年11月14日**
世界アルミニウム工業 p. 4
カナダ、ソヴィエト聯邦間のアルミニウム、重油交換取引 p. 56
- 研究報告 第4號 住友伸銅鋼管株式會社**
鑄物用及鍛鍊用マグネシウム合金の研究 五十嵐 勇 p. 187
- マグネシウム合金鍛鍊材の比較試験 五十嵐 勇 p. 205
獨逸製マグネシウム合金板に就て 稻村 賢三、東尾 伸吉 p. 212
縮み代の少ないマグネシウム合金 五十嵐 勇 p. 223
マグネシウム合金のブリネル硬度に就て " p. 224
アルミニウムの性質に及ぼす少量の鐵及硅素の影響 東尾 伸吉 p. 225
航空機用ニッケル、クローム 空氣焼入鋼管に就て 絹川 武良司 p. 235
鋼の高溫度抗張試験 井手 茂、伊藤 雄三 p. 263
- 電氣製鋼 第8卷 第11號 昭和7年11月15日**
長き圓筒型試片を用ひて赤煉瓦の熱傳導率測定 田所 芳秋 p. 521
鐵の腐蝕に關するコロイド説と最近の Friend 氏の説明 遠藤 彦造 p. 527
高溫度用特殊耐火材料 佐藤 知雄 p. 544
- 鑄物 第4卷 第11號 昭和7年11月**
伸縮接手鞘金鑄造法に就て 海軍艦政本部 p. 1
釜砂に關する研究、大型乾燥爐の研究 楠瀬 四郎 p. 3
砲金熔解用モルガン爐の改造 佐野 佐左 p. 16
- 探鑛冶金月報 第10年 第11報 昭和7年11月5日**
極東に於けるアルミニウム冶金工業 波邊 俊雄 p. 271
亞鉛電解に於ける除鐵劑としての過滿酸加里に就て 仲田 旭 p. 273
- 駿工 第8卷 第10號 昭和7年11月1日**
鑄ない金屬の磨きに就いて 中野 格致 p. 21
- 研究報告 昭和7年10月1日 三菱航空機株式會社**
硬質白色合金と軸受損傷の機構 須永 信二、森義 彦 p. 1
窒素に對する溫度と時間との影響 石澤 命知、石形 康夫 p. 18
- 製鐵研究 第127號 昭和7年11月**
各種耐火煉瓦の熱的諸性質に就て 田所 芳秋 p. 137
滿庵含有量が壓延鋼材の機械的諸性質に及ぼす影響に就て 城 正 俊 p. 194
合金チルドロールの研究 谷口 光平 p. 198
- 燃料協會誌 第122號 第11年 記念大會講演錄**
燃料問題に就て 中島 久萬吉 p. 1523
燃料に關する研究の趨勢 井上 仁吉 p. 1536
産業と燃料研究 伴 義 定 p. 1540
我國石炭鑛業最近の發達に就て 牧田 環 p. 1547
滿洲の石炭に就て 岡 新文 p. 1602
石炭油化法に就て 大川 亨 p. 1635
- 海外經濟事情 第5年 第47號**

ケンヤに於ける新金坑 p. 55

滿洲技術協會誌 第9卷第52號昭和7年11月

滿洲の工業教育 貝瀬 謹吾 p. 429

全滿規格標準化提唱 // p. 433

金屬の研究 第9卷第11號昭和7年11月

滿庵アンチモン系平衡狀態圖

村上武次郎、八田篤敬 p. 465

デバイ、セーラー-X線寫眞の補正に就て

西山 善次 p. 476

鐵一室素系合金の狀態圖に就て 綿織 清治 p. 490

水道協會雜誌 創刊號 昭和7年12月1日

横濱水道用電氣銲接鋼鐵管に就て 堀江 勝巳 p. 35

可鍛鑄鐵製異形管に就て 清川 雅衛 p. 59

機械學會誌 第35卷第188號昭和7年12月

回轉車軸の二次的振動 中西 不二夫 p. 1170

組合せ曲げ振りによる軟鋼丸棒の降伏點

中西 不二夫 p. 1172

高溫度に於ける鋼の匍匐に就て(第2報)

清水 篤磨 p. 1174

既成鑄鐵の耐磨耗性増加の研究 高場市太郎 p. 1180

大日本窯業協會雜誌 Vol. 40 No. 480

ポルトランドセメントのマグネシア

含有量に就て 近藤清治、和田貞次 p. 769

コットレル式電氣收塵法と其の應用(其一)

志賀 潔 p. 779

炭素沈積による銲鑪煉瓦の損傷 毛利 定男 p. 792

造兵彙報 第10卷第6號 昭和7年12月1日

内外國製高速度鋼の切削試験に就て

杉本正邦、福田健太 p. 51

昭和7年10月中(八幡)製鐵所銑鋼生産高(噸)

銑 鐵			鋼 塊			鋼 材		
當 月 生 産 高	前月比較	1 月以降 累 計	當 月 生 産 高	前月比較	1 月以降 累 計	當 月 生 産 高	前月比較	1 月以降 累 計
58,667	+ 3,506	602,531	111,557	+ 9,525	985,260	92,063	+ 3,372	747,856

訂正前號に「10月中」とあるは「9月中」の誤り

昭和7年9月中重要生産月報抜萃(商工大臣官房統計課)

品 目	9 月 中	前 月	前年同月	1 月 以 降 累 計	
				昭和7年	昭和6年
金	1,056,773	1,046,639	1,041,880	9,159,151	9,175,938
銀	14,606,753	14,070,316	14,518,368	119,476,464	124,079,359
銅	6,087,278	5,397,147	6,231,541	53,126,410	56,099,618
硫 黃	6,795	7,207	4,601	54,588	40,840
石 炭	1,992,038	1,895,892	2,072,585	19,273,158	19,193,952
油(原油)	198,470	213,088	238,595	1,909,753	2,309,889
セメント	294,301	282,597	300,016	2,691,244	2,734,350
過 燐 酸 石 灰	74,174	72,572	54,172	762,214	657,969
硫 安	61,805	65,753	60,550	461,088	410,951

昭和7年自2月至10月外國銑輸入高(單位噸)

(銑鐵共同販賣株式會社)

月 次	輸 出 國 名					計
	印 度	英 國	獨 逸	米 國	瑞 典	
2 月	24,187	356	101	—	102	24,746
3 月	18,300	—	—	204	102	18,806
4 月	16,986	173	—	—	—	17,159
5 月	12,655	559	—	—	102	13,316
6 月	11,636	559	—	—	10	12,205
7 月	6,509	508	5	—	102	7,124
8 月	—	—	203	—	—	203
9 月	1,909	—	—	—	—	1,909
10 月	2,476	—	—	—	—	2,476
1 月 以 降 累 計	109,776	2,694	309	311	418	113,508